

# 令和2年度シラバス（地理歴史）

学番 21 新潟県立阿賀黎明高等学校

教科（科目）	地理歴史（日本史B）	単位	2単位	学年（コース）	3年（教養コース）
使用教科書	高校日本史B改訂版(山川出版社)				
副教材等	最新日本史図表(第一学習社)				

## 1 学習目標

日本の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、日本の伝統と文化の特色についての認識を深めさせる。そこから歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

## 2 指導の重点

- ①基礎的・基本的な事項の定着を図る。
- ②資料や統計を読み取る力を育てる。
  - 小テストを単元ごとに実施する。
  - 授業に遅れがちな生徒に対する補習を実施する。
  - 授業についてのアンケートを実施し、その結果を授業に反映する。
  - 作業学習を取り入れる。

## 3 指導計画

月	科目、章、節	学習内容	時間
4	9. 近代国家の成立 1 開国と幕府の滅亡	・ペリー来航の背景や、日米和親条約・日米通商修好条約の締結に至る経過やその影響を理解する。 ・幕政の混乱を南紀派と一橋派の対立を軸に考察し、公武合体、尊王攘夷運動、討幕運動などに着目して、明治維新に至る動向を理解する。	11
5	2 明治維新	・明治維新の諸政策、特に廃藩置県・地租改正・富国強兵・殖産興業政策を通して、日本の近代化について理解する。 ・明治初期の外交政策について、多面的・多角的に把握する。	
一学期中間考査			1
5	3 立憲国家の成立	・自由民権運動が農民をも含めた運動であったこと、それを通じて民衆意識も近代化していったことを理解する。 ・大日本帝国憲法制定の意義や憲法の性格を理解する。	
6	4 大陸政策の展開 5 近代産業の発展	・条約改正が国民の関心を集めた背景と、条約改正が実現した諸条件を理解する。 ・日清戦争に至る過程と、その後の影響について理解する。 ・日露戦争について世界情勢を踏まえて多角的に理解する。 ・日本の産業革命・資本主義化がどのように進められたか理解する。 ・西洋文化の輸入から近代文化が形成される過程に着目し、日本人の価値観の中に国家主義的傾向がどのように育まれたかを理解する。	12
一学期期末考査			1
7	10. 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本	・欧米からアジアに至るまで、広範囲の国際環境の推移に着目しながら第一次世界大戦を理解する。 ・大正デモクラシーと本格的な政党内閣の成立の経緯について理解する。 ・第一次世界大戦後の日本の軍縮や協調外交を世界的視野で把握する。	
8	・テーマを設定し、レポート提出。		15
9	2 政党政治と大衆文化 3 恐慌の時代	・不況下で社会運動が高揚し、その結果として普通選挙法と治安維持法が同時に成立したことを理解する。 ・大衆文化の成立を、産業構造の変化や都市化という背景を踏まえて理解する。 ・金融恐慌の結果、財閥の支配が決定的となり、その後の世界恐慌に巻き込まれた日本が、深刻な昭和恐慌に陥った経緯を理解する。	
二学期中間考査			1

10	4 軍部の台頭  5 第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて多角的に理解する。</li> <li>・国家主義が台頭し、二・二六事件以降、軍部の発言力が強化された経過を理解する。</li> <li>・日中戦争から太平洋戦争の突入に至る過程について、全体主義的な国家体制の進展を踏まえて理解する。</li> <li>・太平洋戦争の開戦から終戦までの経緯について、国民生活への影響や国際情勢を踏まえて理解する。</li> <li>・国家主義が台頭し、二・二六事件以降、軍部の発言力が強化された経過を理解する。</li> <li>・日中戦争から太平洋戦争の突入に至る過程について、全体主義的な国家体制の進展を踏まえて理解する。</li> <li>・太平洋戦争の開戦から終戦までの経緯について、国民生活への影響や国際情勢を踏まえて理解する。</li> </ul>	11
11	1 1. 現代の世界と日本 1 占領下の改革と主権の回復	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GHQによる諸政策について考察し、日本国憲法が制定された経緯と意義を理解する。</li> <li>・国際情勢の変化の中で、アメリカが日本の独立と国際社会への復帰を推進し、日米安全保障条約による新たな日米関係が成立したことを理解する。</li> </ul>	
二 学 期 期 末 考 査			1
12	2 55年体制と高度経済成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東西冷戦の下で、日本国内では55年体制が成立し、ソ連との国交や国連への加盟が実現したことを理解する。</li> <li>・経済成長を重視することで、長期保守政権が安定したことを理解する。</li> </ul>	
1	3 現代の情勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度経済成長政策の下で経済が大発展し、その一方で公害が深刻化し、また、マス＝メディアの発達が社会に大きな変化をもたらしたことを理解する。</li> <li>・ドル危機や石油危機によるマイナス成長への日本の対応、また、貿易摩擦や円高へ対応しながら、国際的な地位向上に努めた点について理解する。</li> </ul>	16
学 年 末 考 査			1
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況への経緯などについて、今日的な課題を踏まえながら理解する。</li> <li>・授業を通して培った歴史的な思考力を文章で表現する。</li> </ul>	6
3	歴史の論述	歴史の転換期をまとめる。	

1 単位時間は47分間 計76

#### 4 課題・提出物等

- ・進捗ごとのまとめプリント
- ・ノート提出 等

#### 5 評価規準と評価方法

(①関心・意欲・態度)	(②思考・判断・表現)	(③資料活用の技能)		(④知識・理解)
関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・理解
日本列島で人類が文化を作り上げていく過程に関心を持ち、現代の日本の文化がどのようなにつくりあげられるかを理解し、自分の生活と歴史を関連づけることができる。	自分が調べたことや疑問に思ったことを発表し、または他者に質問することにより、自分の学習に役立てることができる。	課題レポートやテストの論述問題などで、自分が調べて学習したことを文章として表現することができる。	教科書の文章だけでなく、図表の写真や絵画・年表などを読みとり、学習に役立てることができる。	日本の歴史は東アジアや他の地域と交流のなかで築かれていくこと、また様々な階層の人々によりつくられていくことを理解する。
以上の観点を踏まえ、定期考査の点数や提出物の内容により総合的に判断し、100点法および5段階評定で評価します。				

#### 6 担当者からの一言

われわれが生活している日本はどのような歴史をつくり、どのように発展してきたのでしょうか。今後、日本で生活し、また国際社会のなかで生きていく高校生はぜひ理解を深めてください。